

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成30年度病害虫防除情報第7号

ピーマンの害虫対策について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

**ヒラズハナアザミウマの発生が増加しています。
花への寄生数が多くなる前に防除を行いましょう。**

- 1 作物名 冬春ピーマン
- 2 病害虫名 ヒラズハナアザミウマ
- 3 発生状況（経過）

11月中旬の巡回調査におけるヒラズハナアザミウマの発生面積率は83.3%（前年16.7%、平年38.6%）で平年より多、10花当たり虫数は6.4頭（前年0.7頭、平年5.5頭）で平年並、寄生花率は24.3%（前年3.2%、平年13.5%）で平年より多となっている（図1～2）。

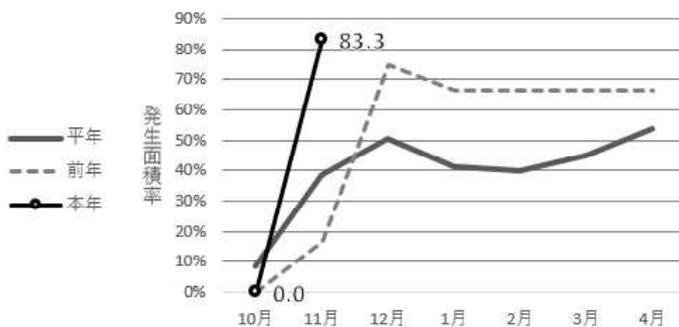


図1 発生面積率の推移

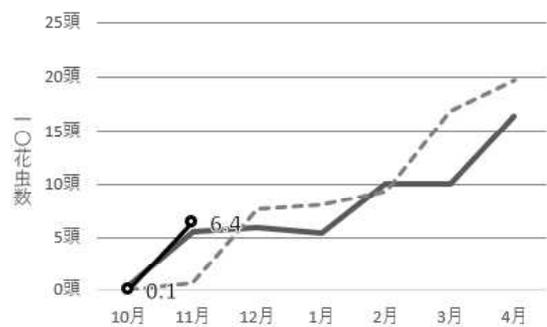


図2 10花当たり虫数の推移

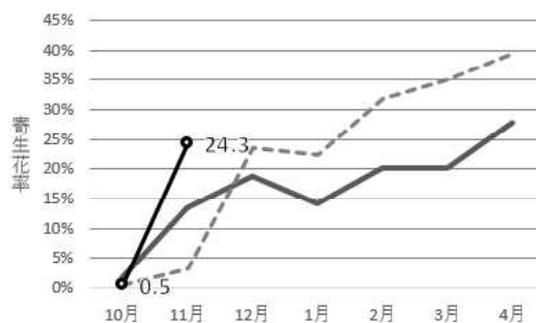


図3 寄生花率

4 防除上の注意

- 1) 多発すると果実への被害が見られる場合がある。特にミナミキイロアザミウマに対し天敵スワルスキーカブリダニを導入しているほ場において、ヒラズハナアザミウマの発生が多い傾向にある。高密度での防除は困難であるため、低密度のうちに防除を行う。
- 2) 施設内では、卵・幼虫・蛹・成虫が混在し、卵と蛹には薬剤がかかりにくい。そのため最少でも7日間隔で3回の連続防除を行い、多発しているときは更に連続した防除を徹底する。
- 3) ミナミキイロアザミウマとは薬剤に対する感受性が異なるので、薬剤の選択には注意するとともに、天敵を導入している施設では、天敵に対して影響の少ない薬剤を選択する。
- 4) ヒラズハナアザミウマは、主に花内に生息することから、薬剤の花への付着性を高めるために、できるだけ展着剤を加用する。
- 5) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布に努める。

●その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センターなど関係機関に照会してください。

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課

（病害虫防除・肥料検査センター） 森下

TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp